

とうとう国際課税委員会は 100 回を超えました。101 回目は、17 年 6 月 2 日、東レ税務室長の栗原正明氏をお迎えして（といっても、栗原さんはメンバーです）、「東レの成長戦略と税務課題」についてお話いただきました。お話の内容上、詳細な議事録は省略させていただきます。

以下は、出席者を含めた参加者全員の議論の概要です。

- ・近年の BEPS 対応などで民間各社の税務の要員の必要性・重要性は増してきたが、これを現実の増員にどう結び付けていくのかは、必ずしも容易ではない。
- ・BEPS により日本の税務知識だけでは対応がむづかしくなった。海外は専門家に任せるしかない。
- ・子会社も含めた税務ガバナンスの必要性を痛感する毎日。
- ・移転価格ポリシーは、現場と議論しながら進めていく必要がある。
- ・マスターファイルとローカルファイルとの整合性をどこまでとるのか。
- ・現地子会社で課税を受けた場合、相互協議に進むのかどうかという判断がある。
- ・相互協議、APA は、会社として、専門家へのコストが発生するという問題がある。
- ・所得相応性基準などが導入されると、相手側が対応的調整をしてくれるかどうか、という問題がより重要になる。
- ・米国のトランプ税制改正議論の不透明性はリスク要因。などでした。

以下の議事録本文は会員用メールマガジンで配信いたします。